# 大館の顔づくりはこれで

## 意見・提言の内容

**（清水）** それでは、参加者からご提言をいただき、それに対する意見を、パネリストが述べるというやり方で進めます。

**提言** 木材業の不振が続いていますが、森林資源を活用してのリゾート開発とか、ブランド品づくりはできないでしょうか。

**（緑川）** 国では、木材の飼料化とか、木材糖分を抽出して商品化するとか、いろいろ新しい試みをしています。これらをよく研究して、大館に適したものを探す必要があると思います。

なお、国のリゾート開発計画に、残念ながら、大館は入っていません。

**提言** 最先端のファッションに携わる工場の進出が著しい大館ですが、製品の地元販売などで「ファッションのまち」を目指したらどうでしょうか。

**（西田）** 発展性のあるテーマで、すばらしい考えです。アパレル産業と、デザイナー・パターンナーを養成する学校を結びつけられたらとも思います。

**提言** 大館には、日本一の生産を誇る優良ホップがあります。ビール工場を誘致し、雪沢牧場でバイキング、そして、長木川渓谷美を楽しんでもらうというような観光開発は、できないでしょうか。

**（伊藤）** つくりたてのビールの味は格別で、大賛成です。

ただ、大館に限定してしまうのではなく、周辺に良いものができれば、大館も良くなるという、広い視野に立った見方、考え方も必要だと思います。

**提言** 大館は温泉資源がたくさんあるので、これを利用し、誘客能力の高いふるさとセンターが、必要ではないでしょうか。

**（中田）** 私個人としては、文化的欲求を満たしてくれる博物館とか資料館などの施設が、より大事と考えています。

**提言** 大館を良くするためには、若者の新鮮な見方・考え方が必要だと思います。

そこで、大館の歴史を学べる資料館を造るなどして、大館を良くするための、考える場を与えるべきと考えます。

**（石川）** 私も、地域の祭りや芸能などを含め、大館の歴史を学べる施設が必要だと考えます。

**提言** 現在は情報化社会ですので、正確な情報を、迅速に役立たせていくための通信ネットワークづくりをして、まちづくりの基盤とすることを提案します。

**（伊藤）** 企業の立場からすると、ポケットベルとか、ファックスを利用し、大変役に立っています。今後、情報通信技術がさらに進歩すれば、有効な手段になると思います。

**提言** 金属鉱業研究所を大館に誘致して、金属に関するシンクタンクをつくれないでしょうか。

**（緑川）** 最終的には、大館の教育レベルを、どうやって上げていくかということに、行きつくと思います。

息の長い問題だと思いますが、知的レベルアップを図っていくことが、大館が生き残っていく道だと考えています。

# 大館の顔は県北の顔

## 清水コーディネーター

これで三回のシンポジウムが開催されたわけですが、第一回目は、いわば「イントロ」の部分で、第二回目に「テーマ探策」を行い、今回が「まとめと実現化」というように、分けられると思います。

先般、私は、五十五歳以上の方しか住めないという、アメリカのサンシティを視察してきました。高齢化社会における快適な生活環境づくりを目指した都市で、住宅や交通システムの面から大変上手につくられていました。

このことから、私は「シルバーリゾート」というものを、秋田でできないだろうかと考えています。高齢化社会に対応する地域づくりは、今後は避けて通ることのできない課題の一つですし、高齢化が著しい秋田では、特に無視できない問題と言えるでしょう。

さて、過去二回のシンポジウムの経過を踏まえ、今回は「一つでも実現化できるものはないか。その可能性を探っていこう。」ということから『どうする大館の顔づくり』というテーマになったと思います。

具体的な提言・アドバイスが、たくさんありました。これらをよく吟味し、目標を定め、実現化のための方策を十分研究し、実行なさればよいと思います。

成功するかしないかは、市民のやる気にかかっています。だれもが住みたいと思うような、そして住みやすい「まち」をつくることが一番大切なことです。

大館が良くならなければ、県北は良くなりません。大館の顔は、県北の顔となります。大館の責任は非常に重いということをかみしめて、がんばってください。

～・～・～・～・～・～・～・～・

第三回のシンポジウムからひろってみました。このほかにも、活発に意見・提言がなされましたが、紙面の関係上、割愛させていただきました。

市では、大館についての意見、要望など、皆さんの日ごろのお考えを気軽に述べていただきたいと思い、今回、『ハイ！私からちょっと一言』を、折り込みました。

ご意見、ご要望をお待ちしています。